



あつい夏 オリンピック 2024 のあつき戦いに学ぶ

校長 升田 重樹

例年の夏の猛暑の影響から、全道の多くの高校が夏季休業を延長し、本校も30日間の長い休業としました。休業中は部活動と進路指導を受けている一部の生徒の姿しかなく閑散としていて寂しかったのですが、始業式で生徒たちの顔を見たら、眠っていた私の体のエンジンも始動しました。やはり生徒あっての学校だとあらためて感じました。

夏季休業中の前半、世間ではご存じのとおりパリオリンピックで盛り上がりました。日本選手団も美唄市出身の柔道、永山竜樹選手の銅メダル獲得をはじめ、多くの競技で選手たちが活躍してメダルを獲得しました。オリンピックを語ればきりがありませんが、私が一番注目したのは、メダル獲得はなりませんでしたが女子マラソンの鈴木優花選手の6位入賞です。世界の女子マラソンはケニアやエチオピアというアフリカ勢が圧倒的な力を発揮して常に上位を占めています。パリのコースは非常に起伏が激しく、私もテレビ観戦で驚いたのですが、30km付近からは急な上りコースが続きます。その30km付近までは鈴木選手もトップ集団についていたのですが、ここで集団はアフリカ勢の数人になりました。私はこの時点で鈴木選手ももはやこれまでかとあきらめました。逆にここまでよく健闘したなと勝手に思っていました。しかし、欧米等の選手たちが大きく引き離され、誰一人ついていけないこのきつい上り坂を、鈴木選手は徐々に差を詰めて35km手前で再びアフリカ勢5人のトップ集団に追いつく粘りを見せました。マラソンでこのような例をあまり見たことがありません。ましてや追いついたのは日本人の鈴木選手ただ一人です。最後はアフリカ勢の底力に屈しましたが、粘りの6位入賞です。

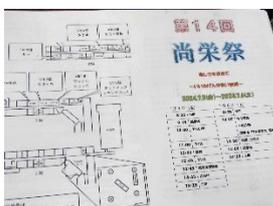
よく人生を長いマラソンレースに例えることがあります。私は全校集会などの場で生徒たちに、卒業して世の中に出ると、うまくいかないことや辛いことは必ずある、でも簡単に投げ出したりしてほしくない。というような内容の話をよくしていましたが、鈴木選手のレース観戦中にあきらめた自分がいました。ほとんどの選手が脱落した苦しい場面であきらめずに粘り強い走りを見せた鈴木選手に、人生に立ち足る困難を乗り越えていくことはこういうことなんだと、口先だけで偉そうなことを言っていた自分を顧みることができました。多くの競技種目がある中で、あえて競技を楽しみたいという選手もいました。確かに新しく導入された競技などと、永山選手の柔道などでは背負うものの大きさが違うかもしれませんが、でも、すべての選手が日本の代表として大きなものを背負って戦い抜くにはとてつもないプレッシャーがあったことだと思います。オリンピックの舞台に立つまでにはどの選手もいくつもの苦しみやくやしさがあったことでしょう。

本校3年次生はいよいよ就職試験が始まります。パリのマラソンコースに例えると、30km付近の急な上りコースに入ったところではないでしょうか。様々な不安もよぎるとは思いますが、目標からはなれずにつかないと結果には結びつきません。ぜひ鈴木選手のように粘りに粘ってゴールにたどり着いてもらいたいです。

♪ 令和6年度 学校祭

7月5日(金) 6日(土)

第14回尚栄祭が行われました。コロナ禍を乗り越えて、再び活気ある学校祭に全校一丸となって取り組みました。



♪ 学校説明会(中学生1日体験入学)、

9/28(土)に実施されます。

1. 開催日時 令和6年9月28日(土) 9:00 12:00 受付開始 8:40
 2. 会場 本校体育科 及び 各教室
 3. 対象 中学校3年生・保護者・中学校教員
 4. 内容 1) 学校説明 2) 施設見学 3) 体験授業 4) 部活動見学(希望者)
- ☆体験授業(50分)・・・5つの授業の中から1つを選択します。
 ☆部活動見学(希望者のみ)・・・12:00 12:30 を予定しています。



※写真は、令和5年度のもので、詳しくは本校HPでご確認ください。